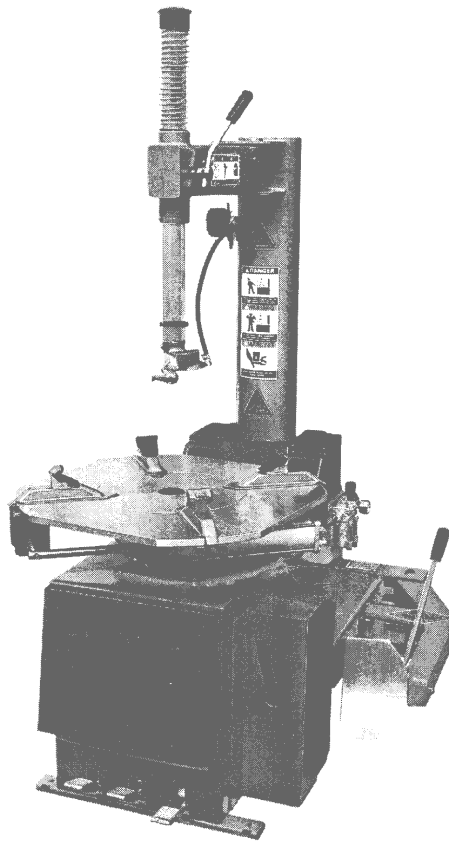


取扱説明書

機械の設置、操作、及び保守



TIRE CHANGER

Model; YLT-605 型
型式

操作を始める前に必ずこのマニュアルをお読み下さい。

0、危険サイン	-----	1-1
1、紹介	-----	5
1.1、テクニカルデータ	-----	5
1.2、機械の説明	-----	5
2、安全要綱	-----	6
3、運送（移動）	-----	6
4、開梱	-----	6
5、組立作業	-----	7
5.3 試運転	-----	8
5.4 操作テスト	-----	9
6、使用方法	-----	9
6.1 ビード落とし作業	-----	9
6.2 タイヤの取り外し	-----	10
6.3 タイヤの装着	-----	11
7、タイヤに空気を入れる（空気充填）	-----	12
8、移動	-----	13
9、保管	-----	13
10、スクラップ（廃棄）	-----	13
11、メンテナンス（保守）	-----	14～15

注記！

YLT-605 部品図、部品番号表に就いては、同封のオリジナル（英文）取り説をご参照下さい。
尚、保管を確実に願い、部品のご発注の際は間違えの無いように番号にてお願いします。

初めに

この取扱説明書は、当機械のオーナーと作業者に対し、YLT-605JP 型の実用的で安全な操作とメンテナンス方法を理解して頂くためのものです。全ての説明を注意深く守ることで、本タイヤチェンジャーはお客様の作業を手助けし、流れに即した長期的で効果的なサービスを提供する事と信じます。 取り説文中に使用されている用語に就いては

” **危険：** ” とは、大ケガや死亡に至るリスクのある直接的な危険を意味します。

” **警告：** ” とは、大ケガや死亡につながるかもしれない危険や安全でないやり方を意味します。

” **注意：** ” とは、物への損傷や軽いケガにつながるかもしれない危険や安全でないやり方を意味します。

電源を入れる前に本取扱い説明書を十分にお読み下さい。

本取扱説明書と機械に付属の部品図などはタイヤチェンジャー近くの作業者の手の届くところにまとめて保管して下さい。

記載されている技術的な手引きは機械の重要な部分を構成します。

販売の際には全ての文書は機械と一緒になければなりません。

この取扱説明書は、本機の銘版に記載されているシリアル番号と共に本機のみ有効です。

警告：

取扱説明書の内容に従って下さい。取扱説明書に特に記載されてなく、許可されていないことをした場合、弊社(株)プリーマタイヤサプライズ社は一切責任を負いません。

危険サイン



4. M/Dツールに注意！

マウントヘッドと
タイヤ/ホイールの中に
手をはさまないように
気をつけてください。



7



3. ターンテーブルに注意！

機械操作時にタイヤと
ターンテーブルの間に手
を置かないで下さい。



5. ジョー(爪)に注意！

手や道具をチャッキング
が開いたり閉じたりして
いる傍に置くのは禁止されて
います。



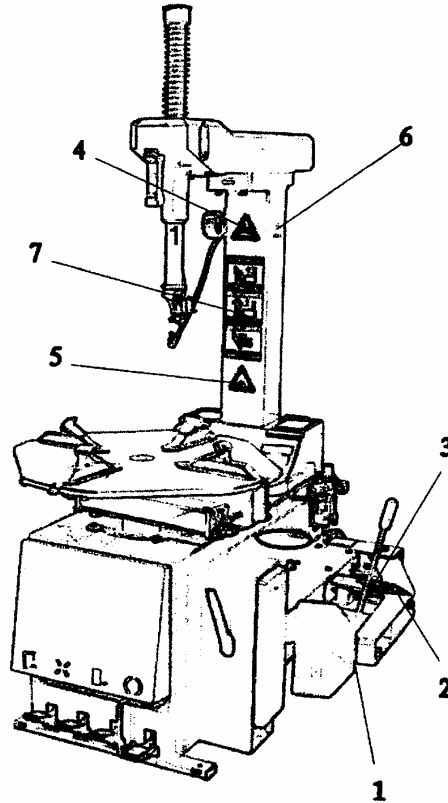
2. ブレーカーに注意！

ビードブレーカーを使用
している時にビードブレー
カーとタイヤの間に足をは
さまないで下さい。



6. 横振りコラムに注意！

機械を使用しているとき
に縦軸シャフト(コラム)の
後ろに立たないで下さい。



機械の裏面

1.電気装置類に気を
付けて下さい。

回転ペタルに注意！

1 紹介

当社のタイヤチェンジジャーをご購入頂きましてありがとうございます。この製品は厳しい品質管理の上製造されました。この取扱説明書は製品の大事な一部としてきちんと保管してください。取扱説明書には安全な操作方法やメンテナンスについて記載がありますのでご使用前に必ず注意してお読み下さい。

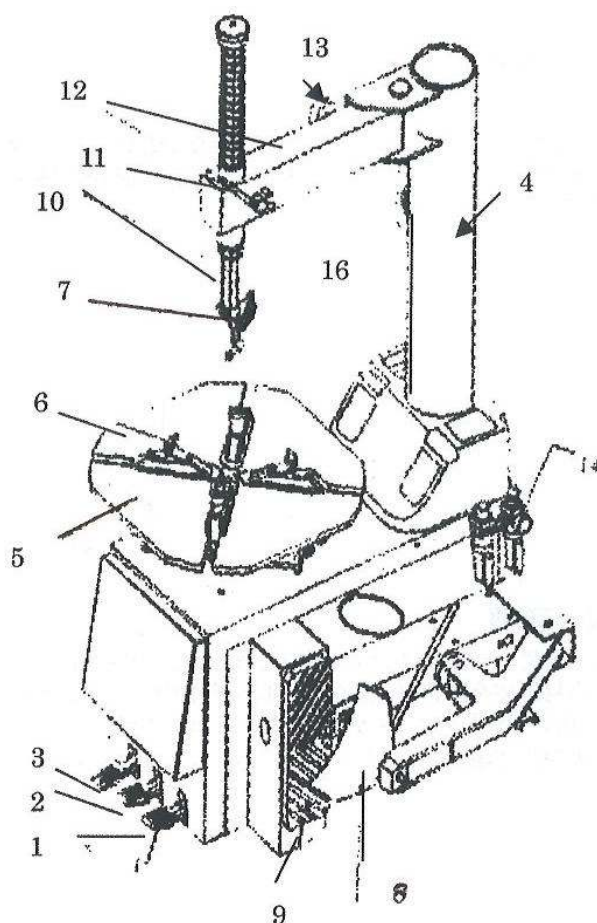
* 将来的な問題の対処するためにこの取扱説明書を大切に保管してください。

1.1 テクニカル データ

最大タイヤ径：	1150mm
最大タイヤ幅：	13 インチ (330mm) (B/B 開幅)
M/Dツール高さ	460 mm、 横軸高さ 650 mm
内締めリム寸法：	14~26 インチ
外締めリム寸法：	12~22 インチ (アダプター使用時は 10~22 インチ)
開き幅最大	< 先端迄 625mm、(カバー付き 615mm) 参考；23 “リム外径は 625mm
最小	< 中心 カバー無し 300mm (カバー付き 290mm)
ビードブレイカーシリンダーの力：	2500 k g
使用空気圧：	0.8-1.0Mpa
電源電圧：	200V 三相
モーター電力：	0.75 k w
作業時の騒音レベル	70 dB
テーブル高さ；	690 mm
機械重量；	230 kg

1.2 機械の説明

1. モーターペダル
2. ビードブレイカーペダル
3. クランプペダル
4. 縦軸アームペダル
5. ターンテーブル
6. クランプ
7. マウンティングヘッド
8. ビードブレイカー
9. ホイールサポート
10. マウンティングアーム
11. 縦軸ロックハンドル
12. 水平軸アーム
13. 横軸アーム調整ハンドル
14. オイラー キット
16. 給気ゲージ



2. 安全要綱

2.1 使用目的

このタイヤチェンジャーはタイヤの装脱着用のみでデザインされ製造されています。適用範囲（12-26 “のリム径、最大径 1150mmに対応。 10 インチリムは 8 インチM/Cアダプターをご使用下さい。）

他の使用方法においては不適切と考慮され、メーカーは、不確定で、不正常で、又不合理的な使用が原因で起こりえる損害の責めは負いかねます。

2.2 総括安全注意事項

タイヤチェンジャーの操作に関しては、特に訓練を受け又指定された人のみで行ってください。

メーカーの承認のない当機の変更や改造や不適切な干渉が原因と思われる損害の責任においてメーカーはその責任を免ぜられるものとする。

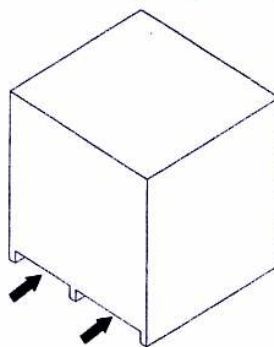
タイヤチェンジャーは基本的には長期的に使用できるように設計されていますが、もしタイヤチェンジャーに何らかの理由で破損があった場合ただちに製造者に問い合わせ代替品を取り寄せて下さい。

- －当期の使用は爆発や火災の危険のない場所でのみで行ってください。
- －オリジナルスペアパーツとアクセサリを必ず使用すること。
- －設置は支持された手順で専門家が行うこと。
- －もし危険が起こった場合注意を払って機械を止め製造者に連絡してください。
- －オペレーター以外の人は必ず機械から離れてください。

3. 運送

：タイヤチェンジャーはオリジナルの梱包方法でパッケージ通りに輸送されなければなりません。

：適切な積載量のあるフォークリフトで梱包した機械を移動させてください。下記の図の方向にフォークを挿入してください。



4. 開梱

：手袋等、怪我のおこらないように準備して開梱を行ってください。

：機材が完全な状態、あるいは部品が破損していないか不足がないか確認してください。疑わしい場合は使用せずただちにメーカーにお問い合わせ下さい。

：梱包に使用されていたベニヤ、ツメ、ネジ、ビニール袋は安全な場所に確保してください。

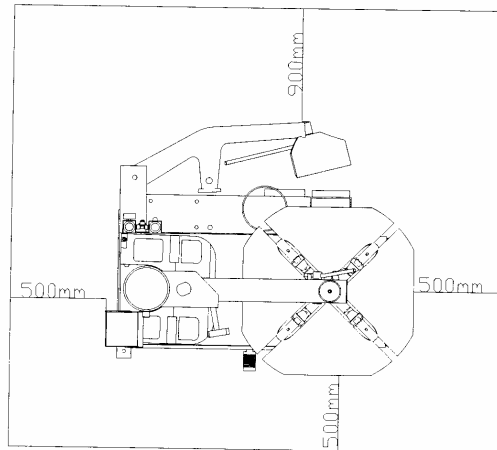
5. 組立作業

5.1 必要な面積

設置場所を選ぶ場合に現在の作業規定に沿っているか確認してください。

この機械は主電源とエアコンプレッサーに接続して使用するものなのでそれらのものに近づけて設置してください。設置場所は機械の部品が正確にまた規制なく操作するために下記の図にある程度のスペースをとり余裕を持って設置するようにしてください。

万一、機械を屋外に設置する場合、雨や風を避ける為に屋根つきの建物で保護して下さい。



5.2 位置あわせと組み立て

5.2.1 縦軸アームの設置

: パレット (カバー) 固定ネジ (1) ワッシャー (2) ボックス (3) を外して下さい。(図-5-1)

: 縦軸/横軸アームをベースに合わせ取り付けます。

ワッシャー (5) をボルトの首下に通し、そのボルト (4) を取りつけてください。

図中の(6)、(7)はありません。

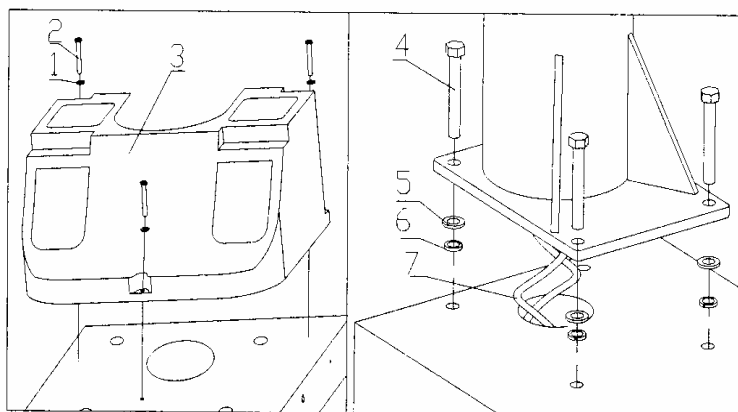


figure 5-1

図 5-1

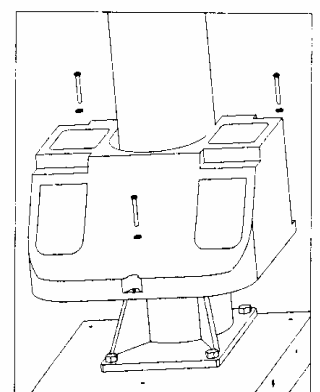


figure 5-2

図 5-2

5.2.2 スプリングの設置

マウンティングアームを上方に押し上げしっかり支え、ネジ 1 とキャップ 2 を取り外し、備えのスプリングを挿入し、再びキャップ 2 を取り付け、ネジ 1 を締めます。(図 5-3)

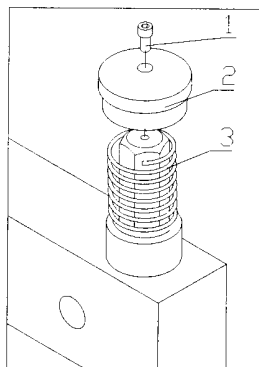


図 5-3

5.2.3 ホイールラバー サポートの設置

ワッシャー 2 とネジ 1 をしめてホイール ラバー サポートを固定します。(図 5-4)

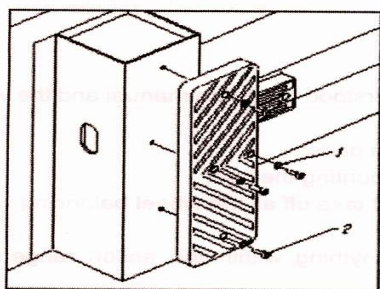


図 5-4

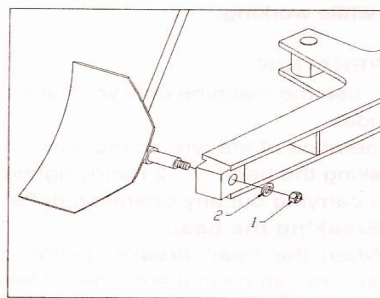


図 5-5

5.2.4 ビードブレイカーブレードの設置

ビードブレイカーブレードのヒンジ部を通し (図-5-5)、波ワッシャー、ワッシャー、ナットの順に取り付け締め
る。(図 5-5)

5.3 試運転

接続を始める前に機械が必要なシステムの状態が一致しているか確認してください。
現行規定に沿ったラインフェーズ、アースからなる電機ネットワークに接続してください。
そして自動回路ブレーカーに必ず接続してください。
タイヤチェンジャーに電気プラグがない場合は最低でも 16A の機械に適合して現行規定に沿っている
プラグをセットして下さい。



警告

些細な工事でも、電気まわりの工事は専門家に依頼してください。

5.4 操作テスト

ペダル 1 を踏むとターンテーブルが右(時計)回り方向に回ります。
ペダル 1 を引き上げるとターンテーブルは左(反時計回り)方向に回ります。

ペダル 2 を踏むとビードブレーカーが作動します。ペダルから足を外すとビードブレーカーはもとの位置に戻ります。

ペダル 3 を踏むと 4 つのクランプが開きます。もう一度踏むと閉じます。

エア給気は 手動式です。 レバーを絞って給気し、ボタンを押して調圧します。

ゲージのボタンを押すと、タイヤより過剰な空気を抜きます。

6. 使用方法

操作の前に取り説をよく読んで理解されてからご使用下さい。
操作は、主に次の 3 つの作業に分類されます。

- 1、ビード落とし作業。
- 2、タイヤの取り外し作業。
- 3、タイヤの組み付け作業。

脱着作業に入る前に、先ずタイヤ内のエアを抜き、バランスウェイトを除去してください。

6.1 ビード落とし作業

注意；

ビードブレーカーペダルを操作する際、ビードブレーカーアームの動作範囲内には危険防止のため、何も無い事を確認して下さい。

- 1、タイヤ内のエアが完全に抜けたかどうかをチェックし、
- 2、ターンテーブルのチャック（クランプ）が完全に閉じているかを確認します。



注意

テーブルが閉じていない場合、タイヤと干渉し双方にダメージが生じる可能性有り、
又、危険防止の為作業者の手は絶対にタイヤのサイド部には置かなで下さい。

- 3、チェンジャーの右側のゴム板部に位置します。
- 4、ブレード(刃)をリムエッジから約 1CM 離して位置し、正確にリムに乗り上げない様に合わせ、ペダル 2 を踏み適量約 5~8CM ブレードを押し込みます。
ここで隙間に噴射潤滑剤（ビブアップなど）を吹き付けまたは、クリームを塗布します。

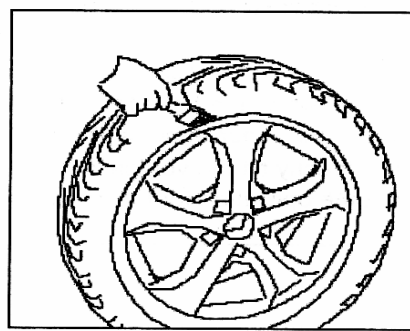
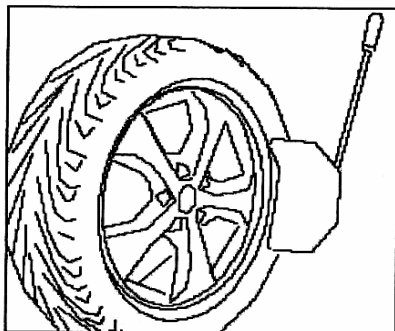
必要以上にブレードを押し込みますとホイールやタイヤに傷つけますので**注意**して下さい。

5、180度回転し、対面のビードを落とします。 同様に潤滑剤塗布。

扁平タイヤはビードが堅いので、3箇所程度落とします。

6、タイヤを反転し反対側を同様にしてビードを落とします。

注記； ロープロタイヤの場合、クランプする側は後で落としたほうが隙間が取れ易いです。



6.2 タイヤの取り外し

操作を始める前に古いバランスウェイトを全て取り外しタイヤに空気が入っていないか確認して下さい。

- 1、ターンテーブルの上をきれいにしてください。
- 2、タイヤのビードに潤滑剤（ワックス）を塗ってください。
*タイヤワックスを塗らなかった場合、タイヤのビードを傷つける可能性があります。
- 3、タイヤをターンテーブルの真ん中に位置させてホイールを正確にクランプしてください。



注意

タイヤをクランプするときタイヤの下に手をはさまないように気をつけてください。

4、リムの外面（外締め）からリムの固定

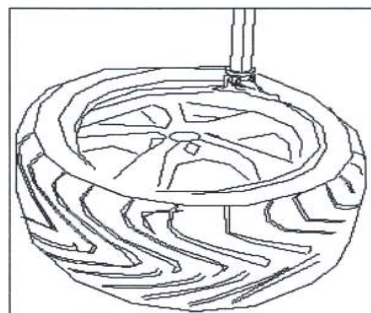
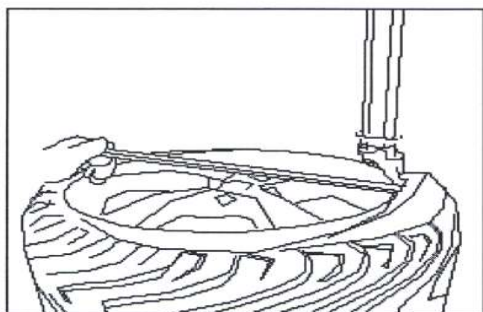
- チャック（クランプ）ペダルを軽く中間まで踏んでクランプをターンテーブルのマークにあわせて位置させてください。
- クランプにタイヤを乗せタイヤ/ホイールを下へ押し付けながらペダル3を踏みます。
 - クランプが完全にしまる位置に合わせてください。
 - *リムがしっかり固定されているか確認してください。**

5、アームを作業時のリム位置に横振りして下さい。ハンドル13で位置決めして下さい。

6、リムの端に対して静止するまでマウンティングバー（縦軸）を下げて下さい。
そこでロッキングハンドル11を回して固定して下さい。

このようにしてマウンティングアームは縦横方向に固定されマウントヘッドはリムから2m mくらいの位置に固定します。

- 7、ビードとディマウントヘッドの間の部分にタイヤレバーを差し込み、タイヤのビードをディマウントヘッドに乗せるように引き上げます。



警告

堅いビードの場合はレバーが顔の方向に飛ぶ恐れがあり危険です。レバーの延長上には位置しないで下さい。又チェーンやブレスレット、ゆるめの服装を着用して操作を行わないで下さい。

*チューブタイプや、ロープロタイヤの場合は余り深くレバーを差し込まないようにし、チューブの保護、インナーライナーの保護に気をつけてください。
M/Dツールに乗せたら、タイヤレバーを引き抜きます。上がりが不十分であればそのポイントに潤滑剤を噴霧し、反時計方向に僅か逆回転してください。

- 8、ディマウントヘッドにビードを乗せたままペダル **1** を踏んでタイヤビードがホイールリムから完全に離れるまでターンテーブルを時計方向に回してください。
-テーブルが回っている間は大変危険ですので手や体をできるだけツールアームから遠ざけてください。
- 9、インナーチューブがある場合は取り除いてください。
- 10、同様に下のビードを外す為、操作を繰り返してください。



注意

手を絶対にホイール上に乗せないで下さい。作業位置までマウンティングアームが移動する際にマウンティングヘッドとリムに手をはさむ危険性があります。

6-3 タイヤの装着



警告

このタイヤとリムの確認はタイヤのエア充填時にタイヤの暴発を防ぐとても大切な確認です。タイヤ装着作業を始める前に下記のことを確認してください。

- タイヤが傷つけられていないか？タイヤに問題があった場合、タイヤの装着は行わないで下さい。
- リムにへこみ、歪みが外観上ある場合は勿論、アロイリムの場合は内部ひずみが生じ、肉眼で確認できないような小さなクラック等が原因で破損を引き起こします。このことがリムにそして特にエア充填時に危険を引き起こす引き金になります。
- タイヤのリム径とタイヤのサイズは正確に同じでなければなりません。両方のサイズが確認できない場合は絶対にタイヤをリムに装着しないで下さい。

- 1、タイヤのビードに傷をつけないようにまたはタイヤの装着を容易に行うためにタイヤワックスを使用してください。
- 2、縦軸アームを後ろに傾けるときに後ろに誰もいないか確認してください。
同じ大きさのリムのサイズのタイヤで作業を行う場合マウンティングバーのロックの開閉をいつも行う必要はありません。
マウンティングアームを倒しもとの位置に戻してください。
- 3、マウンティングヘッドの前方の上の下ビードを乗せ、ディマウントのこぶの下をとおしてビードを手でホイールリムのドロップセンターに落とし入るように押さえ続け、ターンテーブルを時計方向に回すためにペダル1を踏みます。ホイールリムが一周するまでこの作業を続けます。
(インナーチューブがあればここで挿入します。)
- 4、同じ手順でタイヤの上部ビードの装着も行います。

注意：タイヤの装脱着はターンテーブル右回り（時計廻り）で必ず行われます。左回りはオペレーターの操作ミスを訂正する場合、あるいは失速してしまった場合です。

又、堅いビード外し作業時に上ビードをタイヤレバーでディマウントツールに乗せる場合、乗せた後完全にビードが乗らずにレバーが引き抜けません場合があります。この時、僅か反時計回転（反転）すると、ビードが確実にのります。但し、この時は必ず潤滑スプレー（ビブアップ）をレバーとビード間に吹き付けてから僅か反回転してレバーを抜いてください。ビード損傷防止です。

7. タイヤに空気を入れる。



警告

タイヤに空気を入れる時には細心の注意を払ってください。

タイヤチェンジャーはタイヤが破裂した場合オペレーターを保護するようにはデザインされていませんので取扱説明書の指示に必ず従ってください。

※ タイヤの破裂が、オペレーターの重大な怪我や死亡事故を引き起こす原因になります。

- 1、タイヤとホイールリムが同じサイズか注意して確認してください。
- 2、装着前にタイヤにキズ等がないか確認してください。（パンク修理時は内面検査を！）
- 3、断続的に空気を入れて確認しながら充填して下さい。
- 4、給気中はタイヤからできるだけ手や体を遠ざけてください。
安全の為に、安全ケージの中での給気をお勧めします。

法令で 3.0 バール以上の給気圧、3.5 バール以上の使用圧は禁止されています。
充填後、必ず空気圧を確認してください。

7.1：エアーゲージを使用してタイヤに空気を入れる。

下記の手順で空気を充填してください。

1. 外締めチャックを外し、タイヤのバルブにエアーゲージのホースを接続してください。
2. タイヤとリム径が一致しているか再度最終確認してください。
3. 空気の充填中、規定値に達するまで空気圧をよく注意して確認してください。

注意！爆発の可能性あり

4. エアー圧を固定してエアー充填を行う場合、3.5 キロ（バール）を超えないようにして下さい。ビードがシート（上がらない）しない場合は、やり直し潤滑剤を塗布しなおして下さい。
5. 3.5 キロ以上の空気圧が要求される場合、ターンテーブルからホイールを外し特別防護ケージ（別売り）の中に入れて充填を続けてください。
6. 製造者から指定された最大タイヤ空気圧を絶対に超えないようにして下さい。
7. 充填されている状態のタイヤから手や体を近づけないようにして下さい。
8. 訓練をうけたオペレーターのみが上記の操作を行うようにして下さい。他の人がタイヤチェンジャーの操作を行ったり、近くに接近したりしないようにさせてください。

8. 移動

タイヤチェンジャーを移動させる場合フォークリフトをご使用ください。

1. 電気、エアー等の接続を全部切ってください。
2. 床から少し上昇させるため、片方のベースにてこの原理を加えてください。フォークをベースの下にさしこみタイヤチェンジャーをスライドさせて乗せてください。
3. タイヤチェンジャーを新しい位置にセットしてください。

9. 保管

長期にわたって保管する場合、電気、エアー等の全ての元栓を全部切ること。ターンテーブル上のクランプスライディングガイドの酸化を防ぐためにグリースをたくさん塗ってください。

10. スクラップ

機械をスクラップする場合 機械が作動しないように全ての接続を全部切ること。

1. 国内法令にしたがって鉄以外の材料を全て取り外し廃棄してください。
2. 国内法令にしたがって油類を集め指定場所に処理してください。
3. 最後に鉄の材料を廃棄処理してください。

11. メンテナンス

11.1 全般に適用する警告

許可のないものが絶対にメンテナンスを行わないこと。

1. タイヤチェンジャーを問題なく長期にわたって使用して頂く為あるいは正確にご使用頂く為、定期的なメンテナンスを行うことはとても重要です。
2. もしメンテナンスが定期的に行われなかった場合、操作と機械その物の信用性に不具合が生じる可能性があります。そのような状況下で機械の側で他の作業が行われたり他の人が近づくことはとても危険です。
3. メンテナンスを行う前に必ずエアー、電気等の接続を切ってください。そしてチェンジャー内にある空気を抜くためにビードを3-4回落とす必要があります。
4. オリジナル部品のみを使用し熟練者が不良部品の交換を行うようにしてください。
5. 安全装置（レギュレーター、減圧バルブ等）を外したり、改ざんすることは安全規則違反になります。

とりわけ、製造者は別のメーカーのパーツが使用された場合におこる苦情、安全装置が取り外されたり、改ざんされた場合は一切責任を負いかねますのでご了承ください。

11.2 メンテナンス作業

1. ごみが蓄積して凝固しないように週に一度はターンテーブルをディーゼルオイルでふき取り、クランプスライディングガイドにグリースを塗ってください。
2. 下記の操作を最低でも一ヶ月に一度は行ってください。
- オイラーのオイルの量を確認すること 必要であればネジ 2 を外してオイルを付け加えてください。SAE30 オイルのみを使用してください。(図-11)
オイラーにオイルのドロップが注入されているか確認してください。3-4 回ごとにペダル 1 を踏むとおilingが注入されます。もし注入されない場合、ネジ 2 を使用し調整してください。(図 11-2)
クランプを締め付けているネジ 1 とターンテーブルスライドのネジ 2 を閉め直して下さい。

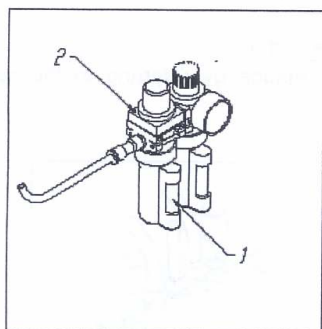


図-11

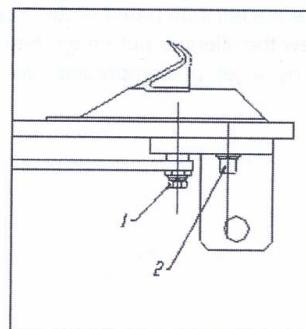


図-12

ターンテーブルが動かない場合、ドライブベルトが緩んでいる可能性があります。

手順

- 操作を始める前に 全ての電源、エアー等の接続を切ってください。
- タイヤチェンジャーの左のボディーパネルを外してください。

-**モーターサポートの上にある特別調整ネジ 1 を調整してベルトをきつく締めてください。**
もしマウンティングヘッドがロックせずリムから 2mm の所で止まらない場合はマウンティングアームのロッキングプレートにあるネジ 1 を調整する必要があります。

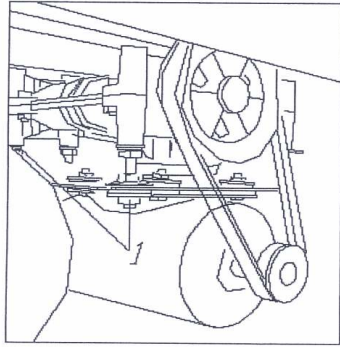


図 11-3

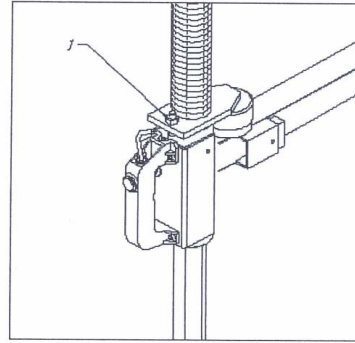


図 11-4

クランプの開閉がゆっくり動いてしまう場合、開け閉めのクランプを容易に行いやすいようにサイレンサーを洗浄するか交換するか行ってください。(図 11-5)

手順

- (ア) タイヤチェンジャーの左側のパネルをはずしてください。
- (イ) クランプペダルのサイレンサーを外してください。
- (ウ) 圧縮空気の問題あるいは、破損がある場合はスペアパーツリストを参照して交換を行ってください。

ビードブレーカーブレードの動きが遅くなった場合、ビードブレーカーブレードのサイレンサーを洗浄するか、交換する必要があります。(図 11-6)

手順

1. タイヤチェンジャーの左側のパネルを外してください。
2. ビードブレーカーペダルのサイレンサーを外してください。
3. 圧縮空気の問題あるいは、破損がある場合はスペアパーツリストを参照して交換を行ってください。

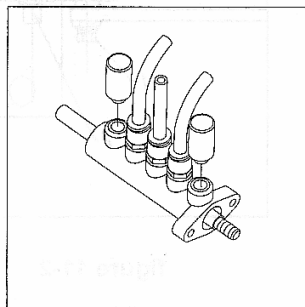


図 11-5

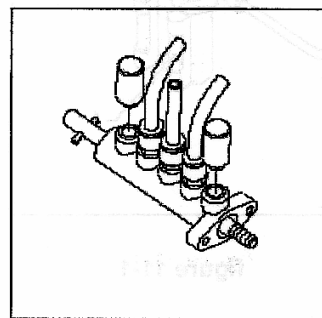


図 11-6

(株) プリーマタイヤサプライズ
〒 160 - 0022 東京都新宿区新宿 1 丁目 2 6 番地 3 号
電話 03-3358-6908